

第22回アドバイザー・ボード会合の概要

「アドバイザー・ボード」の第22回会合の日時・出席者・概要等については、以下に示すとおりである。

日 時：2024（令和6年）年3月27日（水）14時00分～16時00分

場 所：大会議室

出席者：

アドバイザー・ボード委員（第2~4号委員、規程順・五十音順、敬称略）

田中琢哉、鳥居敬、舟橋孝之、三宅卓、吉井満隆、箸本史朗、川上智子

研究科教員

梶原武久、上林憲雄、忽那憲治、宮尾学（第1号委員）

國部克彦、鈴木竜太、松井建二、北川教央、畠田敬

陪 席

岡田将稔

初めに、國部研究科長から、経営学部・経営学研究科の教育プログラムについて、令和5年度の取り組み概要として、経営データ科学教育プログラム5年一貫コース、KIBER・KIMERA、KIMAP（Kobe University Interdisciplinary Master Program）、対話型ビジネス価値共創人材養成プログラムについて説明があった。また、経営学研究科の総収入における国の運営費交付金と外部資金の比率について説明があり、今後の課題として、経営学研究科の特徴でもある産業界との連携による研究教育への展開、ドクターコースのビジネス教育について説明があった。

次に、宮尾 MBA 教務委員から、2023-2024 年度 MBA プログラムについて、2023 年度の入学者数、授業内容の報告、また、2024 年度に向けての検討課題として高度経営人材の育成と DBA、MBA における D&I 推進と「よいこと」の探究について説明があった。

次に、鈴木副研究科長・評議員から、ネットワーク型大学院構築事業について、プログラムの概要と教育研究を展開する3つのポイント、2024年度に予定している教育カリキュラムと共同研究について説明があり、また、キックオフシンポジウムを開催した旨の報告があった。

これらの報告の後、本研究科が取り組んでいる内容に関してアドバイザー・ボード委員から、「よいこと」の定義づけと拡大・探求、多様性・ダイバーシティの世代や職種への拡充、実業における対話と共創の事例、企業における PhD や DBA に対する意志の醸成、企業や海外からの資金による多様な教育プログラムの実施、国際競争に必要なスピード・マクロの視点・交渉力、アイデアや技術からビジネスモデルを構築するための研究と教育、日本初国際標準の創出、女性役員候補者の育成、地域活性化のための自治体職員の育成、インキュベーションのプロセスやサービス業に対する科学的な解明など、多岐にわたるアドバイスやコメントがあり、出席者による活発な意見交換が行われた。